

## 野生動物の保全と管理

自然・環境科学研究所 森光 由樹



## キーワード

野生動物保全、鳥獣管理、DNA分析

## 研究概要

遺伝標識を用いたニホンザルのオスの移動分析

ニホンザルのオスは、性成熟を迎えると別の群れへ移動します。ミトコンドリアDNAは母系遺伝します。オスは、母親から受け継いだミトコンドリアDNAを自分の子供に残すことはできません。この性質を利用することでオスの移動分析しました。群れ特有のミトコンドリアDNAとは異なる遺伝子が発見された場合、そのオスは他から移動してきた個体と判定されます。本研究では、71.8%の成獣オスが群間を移動しており、オスの移動平均距離は $37\text{km} \pm 5.7(\text{SD})$ でした( $n=40$ )。オスの移動が認められない場合、群れ内で近親交配が進むことが予想され、遺伝的多様性は低下します。今回の調査で群れ間でのオス交流が認められたため、現在、問題無いと評価されました。

## アピールポイント

遺伝子標識を開発し、野生動物の行動や習性を明らかにしています。研究の成果は、大型野生動物の保護、管理に役立つよう考慮しています。

## 応用分野

- ・「鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本指針」に必要な技術開発。
- ・特定鳥獣保護管理計画のモニタリング技術の開発・野生動物の保全および管理に必要なユニット設定等。

